

特集

健康的な住まいが欲しい！

暮らしやすく、寿命も延びる

超高齢社会を迎えた現在、わが国では生活環境に起因する健康課題が持続的に顕在化しています。温暖化や省エネルギーによる住環境の変化ばかりではなく、欧米と比べても十分配慮が行き届いているとは言えないわが国の室内環境が、ヒートショック、シックハウス症候群、感染症など、さまざまな健康影響をもたらしています。また今回の新型コロナウイルスの感染拡大、特にクラスターの発生に、室内環境が大きく影響したことも記憶に新しいところです。

本特集の前半では、世界保健機関(WHO)が住宅に関する健康リスク要因を包括的にまとめた「健康と住宅に関するガイドライン」を紹介し、さらに国内の住環境(温度)と心血管疾患との関連に関する調査結果を示し、住環境と健康の関係を解説します。さらにスマートウェルネス住宅の取り組みから断熱改修による温熱環境の改善が住まい手の健康にもたらす効果について、また高齢者施設における室内環境管理の実態と保健所の役割について、それぞれ実際の調査結果に基づいて論じていきます。また、健康増進に向けた住宅環境整備の重要性の観点から、健康に配慮した室内環境のガイドラインの必要性について提言を行います。

後半は、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた室内環境に関する対応について3編の論文を用意しました。換気設計と空気感染の確率の低減に関する研究成果からは、換気による感染対策の理論的側面が学べます。さらに適切な空調運用・管理の方法とその重要性を、専門ではない方にも理解いただけるよう解説しました。夏季に問題となる感染症対策と熱中症対策両立の方法に関する論文は、すぐに役立つ内容となっています。

価格や供給量などが前面に出て、健康面から意識されることの少なかった住宅問題ですが、感染症予防を含め、健康長寿を実現する住宅がどうあるべきか、またその整備に向けて何が必要かについて、それぞれの立場で考える一助となれば幸いです。

(「公衆衛生」編集委員会)